救世軍公報

SALVATIONIST ときのこえ

2019年標語「主の栄光を語り伝えよう」（旧約聖書　歴代誌上 16章24節）

二〇一九年一月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

新春号
広報版
2019
January-February
No.2778

ときのこえ　SALVATIONIST

新春号　広報版
2019 January－February
NO.2778

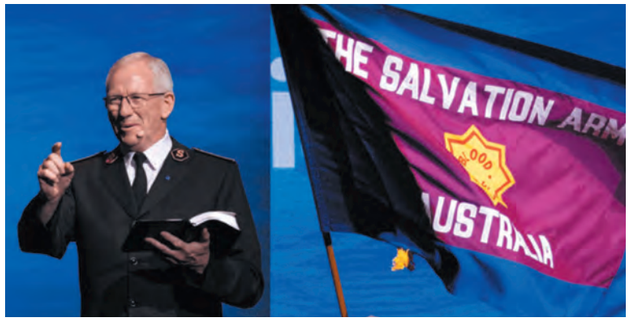
2019年　救世軍標語

「主の栄光を語り伝えよう」

国々に主の栄光を語り伝えよ
諸国の民にその驚くべき御業を。
聖書箇所：歴代誌上16章24節

もくじ

■メッセージ
主の栄光を語り伝えよう
司令官　ケネス・メイナー …… 3
■〔連載〕献身物語～十人十色～第93回
救いも召しもすべて
イエス様によるものです
大尉　勝篦 隆 …… 4
■〔連載〕聖潔の流れに立つ　第四回
ウイリアム・ブースの聖潔
中将　張田 望 …… 5
■集会報告
救世軍クリスマス社会鍋コンサート
司令官によるキャンペーン …… 6
書記長官によるキャンペーン …… 7
■各地のニュース!!
ブース記念病院、京都小隊、
浜松小隊、横浜小隊 …… 8
高知小隊、高松小隊、杉並小隊、
証言「兵士となって」 渋谷小隊 馬場照子
…… 9
西日本連隊
連隊音楽祭及び府民クリスマスプレ集会
社会鍋＆クリスマスコンサート
……10
神田小隊120周年記念集会
2018士官学校キャンペーン ……11
■YP（青少年部）・ファミリーニュース
八幡小隊、天満小隊、大森小隊
こども用歌集 完成！
名古屋小隊 ……12
関東東北連隊 JAM CAMP
■災害対策室リポート ……13
■コラム
日進月歩
『憐れみを伝える者』の学年候補生　樋口 光世
千客万来
『神の国を伝える者』の学年候補生　友安 渚
■士官学校新校舎起工式 ……14
■召天者合同記念会
■救世軍公報及び召天記事
■救世軍歌集　作者物語　第229回
……15
■社会鍋イベントアルバム
■第3回社会鍋俳句コンテスト作品募集中！
……16



オーストラリア軍国誕生！

オーストラリアの救世軍の働きは、オーストラリア南部軍国とオーストラリア東部軍国2つの軍国によって進められてきました。

このたび、2018年12月1日、公式にオーストラリア軍国として1つの軍国になりました。

2018年11月27日（火）～12月2日（日）まで、「Still Others」のテーマで、万国総督ブライアン・ペドル大将及び万国女性部会長ロザリー・ペドル中将を迎えて大会がおこなわれました。士官任官式・新任士官任命式など多くのイベントがおこなわれました。

（写真：オーストラリア軍国の旗の前で語る大将）

-きりとり-

□『ときのこえ』購読を申し込みます。
（1年分1140円。税込、送料別）
□キリスト教についてもっと知りたいです。
ご氏名＿＿＿＿＿＿＿＿
ご住所＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿

表紙の写真：新兵士の誕生を喜ぶ高松小隊一同

主の栄光を語り伝えよう

国々に主の栄光を語り伝えよ　諸国の民にその驚くべき御業を。（歴代誌上16章24節）

司令官　ケネス・メイナー

「主の栄光を語り伝えよう」とは、なんとわくわくするテーマでしょうか。これは、わたしたちが立ち上がり、主の救いを証しし続けるよう、呼びかける標語です。

この標語はまた、心に問いかけます。あなたの行動と言葉は、神の栄光をたたえているでしょうか？　だれかに、自分の人生、小隊、仕事について話すとき、それは、主の栄光をたたえるものでしょうか？　それとも自分自身の栄光を表すものでしょうか？

この標語と聖書の言葉に照らして、三つのポイントに焦点を当てたいと思います。

今年、救世軍の小隊や施設・病院での働きを計画する上で、以下の三つのポイントに力を注ぐことをぜひ考えてみてください。

・福音を宣べ伝えること
・地域のコミュニティ
・グローバルなコミュニティ

それぞれの拠点が、「かけがえのない人々」の集っている場所であることを覚えましょう。これらの三つのポイントについて考え、良いアイデアが示される中で、それぞれの働きの計画が進められるよう願っています。

ぜひ神様からのインスピレーションをいただきましょう。そして、それぞれの働きを通して、あなたの周りの人々に主の栄光を語り伝えてください！

○証言のための三つのステップ

三つのステップにしたがって、あなた自身の証言を考えてみましょう。

ステップ1　キリストを信じる前の自分はどのようなものだったでしょうか？

・キリストに出会う前、あなたの人生がどのようなものだったか（大切にしていたこと、必要としていたもの、抱えていた問題など）を、明確に、また適切な表現で伝えてください。
・クリスチャンになる前の状態についてこれらのことを話すとき、証言が説得力あるものとなります。できるだけ、「宗教」へ焦点を当てることは避け、キリストに焦点を当てましょう。いかに自分にとってキリストが必要であったか、です。
・あなたの人生が変わる前について話すとき、他の宗教や宗派についての説明に時間を費やし過ぎないようにしましょう。薬物、不品行、犯罪、飲酒等についても同様です。

ステップ2　どのようにしてキリストを信じたか…

・自分がどのようにクリスチャンになったのか、また、誰でもキリストを信じて罪の赦しを受けることができることなど、聞いている人がはっきりと理解して、その証言を持ち帰ることができるようにしましょう。

ステップ3　キリストを受け入れた後の自分は…

・キリストがどのように自分の人生を変えてくださったか、明確に説明してください。キリストを自分の人生に受け入れたことで、あなたの人生がどれほど変えられたかを示すためです。たとえば、「私は、今平安を得ています」というような、抽象的な表現ではなく、できるだけ具体的に述べてください。
・人々をキリストに引き寄せるのは、聖霊の働きです。けれども、ぜひ、あなたの人生がキリストによって変えられ、意味あるものになったという証言を、あなた自身の言葉で伝えてください。

小隊や施設・病院にリーフレットをお届けいたします。ぜひ、あなたの証言のために用いましょう。

神様の祝福が豊かにありますように。

（大佐）

二〇一九年テーマコーラス
「主の栄光を語り伝えよ」

主の霊よ
わが内を燃やし
神の愛を　見させたまえ
すべての罪
焼きつくす炎
父よ　送りたまえ
キリストの栄光
あらわす者へと
聖める炎を
父よ　送りたまえ

（NTB608.RANDY BONIFIELD
詞曲　救世軍訳詞）

〔連載〕

献身物語

～十人十色～　第93回

救いも召しもすべてイエス様によるものです

大尉　勝篦　隆

私は、大人になるまでキリスト教に触れる機会はほとんどなく、世間一般の若者と同じように、宗教的なことには全く関心なく過ごしていました。学生時代の友人とは、お酒やたばこも一緒にやり、就職後は会社の付き合いで夜遅くまで飲みに行く、ごく一般的な社会人生活を送っていました。

そうした中で、私は後に妻になる女性と出会いました。彼女は、私が勤めていた会社の取引先の営業で、よく会社に訪問してくれていました。

私自身世俗的な人間で、周りもそのような人が多かったので、彼女は私が知っている人たちとは違う世界観を持っていると感じました。聞いてみると彼女も家族も皆「クリスチャン」だというのです。私はそれまでクリスチャンに出会ったことがなかったので、興味をもち、彼女の優しさや雰囲気に惹かれていきました。

そのうちに彼女から「会社を退職する」と聞きました。キリスト教の学校に行くというので、シスターにでもなるのかと思いました。事情がよく分からなかった私は、会社を辞めたら会えなくなると思い、親しくなろうとアプローチしました。

彼女が広島を発つとき、広島小隊の彼女の送別集会に誘われ、私はその集会に出席しました。それが救世軍との初めての出合いでした。小隊の雰囲気は、私が今まで知っていた世界とは全く違う、とても温かい場所でした。彼女が士官学校に行った後も、私は小隊に通うようになりました。

小隊に通っても生活がすぐに変わるわけではなく、土曜日の夜は、友達と夜遅くまで遊びに出かける日々は続き、次の日に眠そうな顔をして小隊に行っていました。周りから見ると、何で小隊に来ているのか不思議だったと思います。

そのような私でも当時の小隊長夫妻は、いつも親切にしてくれて、私のことを気にかけてくれました。また同世代の人たちも何人かいて仲良くなり、そのクリスチャンたちとの交わりが、私にとって楽しく安らぐものとなりました。

次第に私の生活の中で、小隊の存在が欠かせないものとなり、聖書の言葉に触れ、聖書を読むようになりました。聖書には、私が全く知らなかった、新しい人生の価値観がありました。

私は元々疑い深い性格で、信仰をもつのは簡単ではありませんでしたが、確実に、神様に近づけられていきました。もはや神様を否定しようと思っても、否定できなくなり、私はついにイエス様を受け入れてクリスチャンになる決意をしました。そして小隊に通い始めて二年後、兵士になりました。

兵士として歩んでいく中で、献身ということを考えるようになっていきました。彼女との将来を考えると、そのことは必然ではありましたが、それだけではなく、自分の人生の中に、士官としての道が選択肢として神様から与えられました。

はっきりとした答えが出ないまま数年過ごしていく中で、士官の道をあきらめかけた時期もありました。ところが、二〇〇七年十一月にウエリントン・シタデル・バンドが広島に来たことが、私を大きく献身へと動かしました。引退士官から譲っていただいた制服を初めて着て、パレードやコンサートの奉仕に参加しました。このコンサートには聖霊が働いていました。救世軍でクリスチャンとして奉仕する楽しさ、喜びを、私は心から感じ、士官として奉仕してみたいという思いが強く起こされました。

そして、その年のクリスマスの時期に入った頃、

「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」（コリント二6・2）

という御言葉に触れ、もう先延ばしにしてはならない、今しかないという神様からの迫りがありました。これからの人生を救世軍の士官として生きていく決意をし、士官志願をしました。

翌年、士官学校に入校。士官学校の二年間の訓練は、聖書の学びや実践訓練を通して、神様との関係をより深く知る時でした。

士官任官と共に、小隊に誘ってくれた女性、間島実香大尉と結婚。その後夫婦で、福山小隊、岡山小隊、現在の清瀬小隊に遣わされ、それぞれの地で特別な経験をさせていただいています。働きをしていく中で、自分の足らなさや罪深さを思い知らされることが幾度となくありました。しかし、それらの経験を通して、神様が私の罪を赦し、私を愛してくださっていることを、はっきりと教えてくださいました。

かつて私はイエス様のことを何も知りませんでした。求めたわけでもありませんでした。しかし、イエス様が私に出会ってくださり、私を召してくださいました。私が士官であることは、すべてイエス様によることを、私自身の救いと献身を通して知らされるのです。

私はイエス様からかけがえのない救いの人生をいただきました。だからこそイエス様の素晴らしさを伝えることが、私の士官としての使命であると信じています。（清瀬小隊長・士官学校付）

広島小隊の皆さんと。兵士入隊の記念に

転機となった、救世軍の制服着用での奉仕（2007年、左側）

結婚式で実香大尉と（2010年）

〈連載〉　聖潔の流れに立つ　第四回

ウイリアム・ブースの聖潔

中将　張田　望

「皆さん、注意してください。あなたがたの幸福と感化はすべてあなたがたが聖められているかどうかにかかっています。小羊の血により、聖霊の力によって個々に与えられる聖潔を、今ここでひざまずいて神に求められるよう、私は求めます。」（ウイリアム・ブース）

ウイリアム・ブースの生い立ち

ウイリアム・ブースは、一八二九年四月十日、英国中心部にある地方都市、ノッティンガムで生まれました。父親は事業家で、当時家族は両親と姉と妹の五人でした。少年は遊び仲間のガキ大将で自尊心が強く、頑固で、「強情者」とも呼ばれていましたが、一方、当時の小説や詩などを読みふける少年でした。

父親は息子が立派な英国紳士になるようにと願い、それにふさわしい学校に入れました。一方、母親は善良な人で、他人にも親切でした。父親は、宗教には無関心でしたが、それでも、子どもたちを英国国教会の日曜学校に通わせていました。

ウイリアムは、十三歳の時に父親が事業に失敗したので、退学し、父親が手配した質屋で見習いとなりました。自尊心の強いウイリアムにとってこの環境の変化は彼に屈辱的な打撃を与えたことでしょう。間もなく、父親が亡くなり、家族の生活は一層厳しいものとなりました。

母親はノッティンガムの貧民地区に移り、小さい店を開き、どうにか家族を養っていました。ウイリアムも家族のために懸命に働きました。また、勤め先の質屋の利用者の労苦、身近な極貧地区で生活する家族の軋轢、飢えで亡くなる子どもの悲惨な姿などを見ていたので、彼にとって貧困はごく身近なものでした。

一時、少年ウイリアムは貧困の解決として、将来事業家となる夢をもち、また、社会を変える選挙法改正運動のチャーティストの活動に参加しました。やがて彼は、究極的な救済を信仰に見つけましたが、困窮の中にある人々への救済は後日、救世軍の活動の中で大きく実現していくものとなりました。

ウイリアムは、靴屋で従兄弟のグレゴリーの敬虔な信仰生活の感化などがあり、形式的で冷たい感じのする国教会を離れ、ジョン・ウェスレーの教えを継ぐメソジスト教会に通うようになりました。グレゴリーの「ウイリー、宗教は君の外から来るものだという事を知っているかね」という言葉は、ウイリアムが幼いころから心に留める言葉となっていました。

当時のメソジスト教会の雰囲気は、保守的で形式化されたものでした。少年の心を揺り動かすことはありませんでしたが、「私は神を礼拝するときに、神の正義と尊厳と導きが私に示されていると確信していました」とブースは後に語っています。

救いと聖潔の経験

十四歳の時に聞いた、説教者アイザック・マースデンの説教は彼の心に火をつけました。ブースは後にその時のことを次のように語っています。

「その夜、友人と二人でノッティンガムの街を歩いていました。マースデン師は教会で特別集会を行っていました。……薄暗闇の夜、私たちはチャペルに入りました。中は満員で説教者を見ることができませんでしたが、その声は聞こえました。その時彼は、『時計がコチコチと時を刻むごとに、世界のどこかで、人が死んでいる。その中には、罪悪のゆえに、地獄に堕ちていく人があるにちがいない』と叫びました。友人と一緒でなく、誰かが声をかけてくれたら、その夜、私は心を神に献げていたでしょう。」

マースデンの警告は、少年の心に染み渡りました。

その後、少年は自分の過ち、罪を自覚する経験をしています。それは、友人の高価な銀の鉛筆入れでした。ウイリアムは、ふとしたことから、鉛筆入れを自分の所有物であるかのように持っていました。初めは即刻、友人に返そうと思っていたのですが、どうしたことか彼はその鉛筆入れを自分の物のように、一日中持ち歩くようになっていたのです。しかし、次第にその鉛筆入れが、少年の良心を責め始めました。ついに彼は彼自身の弱さと罪を悟ったのです。その時のことをブースは次のように語っています。

「私はチャペルの地下にある部屋の片隅で祈り、過ちを正す決意をしました。それから、立ち上がり、走って友人を訪ね、自分の過ちと自分の罪について話し、その鉛筆入れを返しました。その時私の心に平安が満ちてきました。」

ウイリアムは十五歳の時に、教会の誰もいない日曜学校の一室で心を込めて祈りました。それが彼の回心の祈りとなりました。

後に、ブースはその祈りがどのようなものであったかを語っています。

「私は罪人であり、主を喜ばすことができない者でした。主のもとに行き、赦しを求めました。主は私の心からの悔い改めと、罪の道から離れること、他人に償うものを償ったことにより、私を受け入れてくださいました。……私はキリストの血潮による救いに導かれたのです。私の心は喜びでいっぱいでした。……私はそれ以来、その救いのお恵みを願う人々のところに遣わされています。……」

この回心の祈りは、救いの確信、心の平安と喜びの体験であり、また他の人の救いのために自分のすべてを献げる人生の大きな転換となりました。（続く）

集会報告

書記長官によるキャンペーン

北海道連隊　9月30日(日)～10月7日(日)

西日本連隊中国九州地区　10月20日(土)～10月28日(日)

北海道連隊

9月30日（日）札幌小隊聖別会を指揮。加藤恭子兵士は、北海道胆振東部地震後、神様の御言葉にしたがって歩んでいる、と証ししました。書記長官藤井健次大佐補は「あなたの豊かさが人を豊かにする」（マタイ12・33～37）と題してメッセージしました。また、第2回救世軍社会鍋俳句コンテストの「ほのぼの賞」を受賞された札幌市在住の熊谷明也さんが聖別会に出席。賞状と記念品が授与されました。（会衆53人、関連写真16ページ）

10月1日（月）、2日（火）桑園保育所、菊水上町保育園、しせいかん保育園の子ども礼拝に出席。書記長官は、カエルのケロちゃん（ハンドパペット）を使って、子どもたちにお話をしました。

3日（水）、函館小隊で特別集会を指揮。遠軽小隊長眞鍋精一少佐、帯広小隊長（兼）釧路小隊長朝澤義人大尉、宮本正勝・智子少佐夫妻も出席し、吉越紀子会計が証ししました。書記長官は「神の国はあなたの中に」（ルカ17・20、21）と題してメッセージしました。（会衆13人）

4日（木）帯広小隊特別集会を指揮（写真下）。朝澤まりこ大尉（帯広）の司会で進められ、連隊バンドが奏楽。軍国女性部書記藤井千明大佐補は、「何よりもまず心を込めて愛し合いなさい」（ペトロ一4・8）と題してショートメッセージをしました。その後、小隊に通う高校生の親御さんが講師をしてくださり、そば作り体験をおこないました。初めてそば作りをする方もいました。そばを打つ方、見て楽しむ方、交わりを楽しむ方と和やかな時を過ごしました。（会衆27人、乳児1人）午後は、連隊士官会をおこないました。

5日（金）釧路小隊聖別会を指揮。書記長官は、12年前に初めて釧路小隊に来られた紺野冨士夫・マチ子さん夫妻（写真右）の准兵士宣言を司式。ご夫妻は、歴代の小隊長の祈りと導き、様々な経験を通して導かれました。書記長官は「神の豊かさに潤う人生」（詩編65・10～14）と題しメッセージしました。（会衆19人、恵の座3人）

7日（日）遠軽小隊日曜学校（成人科）（参加者12人）、礼拝前の祈祷会（15人）の後、聖別会を指揮。小隊長眞鍋精一少佐の司会で進められ、長岡弘曹長の開会祈祷に続いて、連隊長鈴木智博大尉が会衆を歓迎。軍国女性部書記が勧話をしました。書記長官は「よい地に豊かに実を結ぶ」（マルコ4・1～9）と題してメッセージを語りました。（会衆15人、恵の座4人、集合写真下）

昼食後は、回転寿司方式で、士官が座っている戦友の所を順番に回り、一定時間が終わると次々と場所を移動し、グループで語り合い、祈り合う、交流の時をもちました。（15人）（連隊報）

西日本連隊中国九州地区

10月20日（土）、書記長官夫妻は、連隊長添田美和大尉、連隊女性部書記加藤直子大尉と共に、大牟田分隊集会（西山宅・9人、写真左）をおこない、熊本県の西郷宅(9人)、益城町の九州キリスト教災害支援センター熊本ベースを訪問。（8人）夜には、大津分隊集会を指揮しました。（会衆11人、写真右）

21日（日）、八幡小隊聖別会を指揮。（会衆21人、写真は8ページに掲載）午後は福岡小隊集会を指揮し（会衆19人）、集会後「救世軍のビジョンを語る」と題し、戦友方と歓談の時をもちました。その後、堀兵士を訪問しました。

23日（火）、呉保育所礼拝を指揮。（大人30人、子ども90人）午後は、豊浜学寮職員礼拝と交流会。夕食後、子ども集会を導き、楽しいゲームと軍国女性部書記がカエ

（8ページ下に続く）

集会報告

救世軍クリスマス社会鍋コンサート

11月18日(日)午後3時　東京タワー

司令官によるキャンペーン

東京東海道連隊東海道地区

11月10日(土)浜松小隊、11日(日)名古屋小隊、12月2日(日)静清小隊

救世軍クリスマス社会鍋コンサート

東京タワー正面玄関チケット売り場前広場にて、社会鍋デモンストレーションとしておこないました。

観光に訪れていた国内外各地からの多くの人々にクリスマスのメロディーとメッセージ、そして救世軍と社会鍋の支援活動などを伝える機会となりました。

人事・教育部長石川一由紀少佐の司会で進められ、ジャパン・スタッフ・バンド及びジャパン・スタッフ・ソングスターズの奏でるクリスマスソングに、足を止め、座ってコンサートを楽しむ方も多くありました。

司令官ケネス・メイナー大佐は、クリスマスの挨拶と共に、会衆が紙と鉛筆を持って参加しつつクリスマスのメッセージを聞けるよう、数字を使って話しました。

デジタルサイネージ（電子看板）も設置するなど、多角的に社会鍋の情報を提供。東京タワーの公式キャラクター“ノッポン兄弟”が社会鍋や演者の周りでイベントを盛り上げてくれ、救世軍案内チラシは、470枚配布されました。（参加者408人、内スタッフ54人。関連写真16ページに掲載）

司令官によるキャンペーン

司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐によっておこなわれました。

○浜松小隊ー聖別会を指揮。連隊長石川和男少佐の司会で進められ、司会者の開会祈祷に続き、司令官が挨拶。猿渡明子兵士と小林早苗少佐のオカリナデュエット、軍国女性部会長の勧話、猿渡兵士の証言と続き、司令官は「影に勝利する」（詩編23編）と題して語りました。

司令官夫妻が恵の座を導き、前に進み出た方一人ずつと祈りました。集会後、愛餐会の時をもちました。

（会衆17人、恵の座6人、回心者1人）

○名古屋小隊ー日曜学校（15人）、祈祷会（30人）に続いて、司令官が聖別会を指揮しました。市民ブラスのメンバーによる奏楽で開会。小隊長齋藤丈夫大尉の司会で進められ、司会者の開会祈祷に続き、連隊長石川和男少佐がゲストと会衆を歓迎しました。司令官は挨拶の後、手縄小春さんと奥山麻夜さんのジュニア・ソルジャー入隊式を司式。（写真12ページに掲載）さらに、子ども全員を高壇に招いて、子ども祝福式を導きました。軍国女性部会長が、子どもたちへの祝福を祈り、天の父の愛について勧話。唱歌隊が「イエスにあっていつも喜びなさい」を英語で合唱し、ブラス・アンサンブルが、「My Jesus, I Love Thee」を演奏しました。司令官は、「日ごとの糧」（マタイ6章）と題して、必要なものをお与えになる天の神について語り、祈りの時には、司令官夫妻がまず恵の座で祈り、続いて会衆も進み出て祈りました。（会衆30人、恵の座7人）

誕生昼食会の後、軍国女性部会長によるクッキング教室で「ミニコーンドックマフィン」の講習がありました。（参加者17人）その間、男性は司令官と徳川園を散策し、会館に戻った男性はマフィンの試食。司令官夫妻への質問タイムも設け、互いに打ち解ける機会となりました。

両日共晴天に恵まれ、すべての集会が祝福されました。司令官夫妻就任後初の来隊に、戦友の喜びは一入でした。通訳として、中島美和大尉が随行しました。

○静清小隊では、当日が市内一斉防災訓練の日のため、午前に熊田ハナ少佐を訪問。共に賛美し、士官の歩みを振り返り、祈る時をもちました。午後、司令官が聖別会を指揮。連隊長の司会で進められ、開会祈祷後、司令官が挨拶に続いて、永田龍彦会館軍曹を大人部書記に任命しました。また、松永節也さんの准兵士宣言もなされ、2人の証言に一同喜びに満たされました。日曜学校生徒の井出空羽さん・歩波さん姉妹によるピアノ連弾に続いて、軍国女性部会長が神の大いなる愛の贈り物について勧話。司令官は「揺るがぬ希望」（ローマ8章）と題して、「人生には困難があるが、主イエスと共に歩むなら主にある希望が与えられる」と語りました。恵の座が開かれ、司令官夫妻が一人ひとりの祈祷課題に沿って祈りました。（会衆25人、恵の座13人）聖別会後の茶話会と誕生会では和やかに歓談。その後、入院中の増田安子女性部書記をお見舞いしました。

高知小隊

車窓の風景を楽しむ

10月17日(水)、高知小隊ファミリー修養会＆野外デーをおこないました。午前は小隊で集会を守り、「わたしたちの人生という建物は、世界で一番確かな主イエス様という土台の上に建てられており、励まし合い、愛し合う神の家族が与えられている」（コリント一 3・10、11）とのメッセージを味わい、神様からの恵みへの感謝と互いのための祈りを献げました。

集会後、嶺北地区（四国四県へ水の供給をしている吉野川源流があり、四国山脈の峰々が連なる秘境と言われる地域）へ出発、自然豊かな山々と澄んだ秋空、おいしい空気や山の水を味わいながら「神の家族」としての親睦を深めました。この地域に在住の小隊関係者も初めて参加し、美しい風景に「ヤッホー!!」と叫ぶ人もあり、笑いあり、と楽しい会話のはずむファミリー修養会となりました。ハレルヤ！（参加者6人）

高松小隊

10月28日(日)、女性部サンデーの聖別会において、加藤寧音ジュニア・ソルジャーの兵士入隊式をおこないました。加藤兵士は、札幌小隊の加藤雅央兵士・恭子兵士夫妻の長女です。これまでの多くの方々の祈りと神様への感謝を込めて、「しずけきいのりの」（『救世軍歌集』257番）を、自身の証言として、ギターの弾き語りで賛美しました。聖別会終了後、感謝愛餐会として、焼き肉パーティーを楽しみました。出席者の一人ひとりが御言葉と恵みを分かち合い、祝福豊かな聖日となりました。（集合写真を表紙に掲載）

杉並小隊

● 10月14日（日）、会館献堂23周年記念聖別会の席上、下士官任命の時がもたれ、小隊長本村大輔大尉によって、証書が授与されました。（写真左より小隊長、宇賀神智曹長及び副楽長、齋藤惠子書記及び副唱歌隊長、西村和江楽隊軍曹、眞鍋勝利小隊ユースセクレタリー、石坂清太郎青少年部会計、齋藤満楽長及び大人部副会計、木村眞理子柏寿会書記、小島愛子女性部書記、鵜澤龍夫広報軍曹、清水一孝会館軍曹）

● 10月21日（日）、前軍国女性部会長勝地佳子中将を迎えて女性部サンデーを守りました。聖別会が木村いずみ少佐の司会で進められ、一円献金献納式と家庭団入団式がおこなわれました。新団員の眞鍋恵準候補生が証言をし、勝地佳子中将は「集まっていた婦人たち」と題して使徒言行録16章11～15節より説教しました。（写真左から、本村少佐、眞鍋準候補生、勝地中将）

誕生昼食会の後、特別講習会「心と体の変化」を開催しました。老人保健施設グレイスの看護主任夛田看護師と、對馬部長を講師に迎えて、関心のある方々が集まりました。講演と、転倒予防の具体的な運動や質疑応答の後、夛田看護師のバイオリン演奏を聴きながらお茶の時間ももちました。中には、楽器を触らせていただいたり、音を鳴らすことにチャレンジしたり、と楽しいひと時を過ごしました。（参加者22人）

証言「兵士となって」　渋谷小隊　馬場　照子

私たち夫婦が救世軍を知ったきっかけは、あるオーストラリア人との出会いからです。ほどなくして彼は日本人の女性と結婚するとのことで結婚式にも出席することとなりました。彼のお母さんはオーストラリアのアデレードの救世軍の方で、彼が結婚すると聞いて日本へいらした時に渋谷小隊に行かれ、それから彼も渋谷小隊に通うようになったようです。ある日、彼から土曜日に電話があり「教会に一緒に行こう」と誘われました。

私たちは東京に来る前、奈良に転勤で10年ほど住んでいました。周りはいにしえの文化漂う神社、仏閣があり京都もすぐでしたので、仏教の世界にどっぷりつかり、色々な行事を見学したり、体験したりして、教会とは無縁と言うような日々を過ごしていました。それがどういう訳か誘われる度に渋谷小隊に通うようになりました。それは小隊の方々が以前からの知り合いのような雰囲気で、優しく接してくださったからだと思います。何かあったら自分のことのように心配してくださり、祈ってくださる。聖書を学び、身に着いた優しさからでしょう。私にはまだまだほど遠いですが、勉強しながら少しでも近づけたらと思っています。小隊が新しく建て替えられ「神にはできる」という言葉、神の力と、小隊の方々のパワーを目の当たりにし、新会館第1号の兵士になれ、感謝しています。（本当は主人が1号のはずでしたが）

小さい時から家にマリアとキリストの絵があったこと、小学生の時に日曜学校へ少しの間通ったこと、学生時代にシスターに接したこと、叔父が教会に通っていたこと、母が亡くなってから遺品の中から大事に折られたマリアの写真が出てきたことなど、イエス様というぶどうのつるに繋がっていたのかもしれません。「あなたが選んだのではない、わたしがあなたを選んだのだ」の言葉を信じてこれからも自然体で父なる神にお任せして繋がっていきたいと思っています。

今は、ＣＣＭ（コミュニティ・ケア・ミニストリーズ）の活動と年1回の恵泉ホームでの奉仕は夫婦でしています。これからも様々な活動に参加したいと思っております。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース !!

ブース記念病院

11月12日（月）司令官ケネス・メイナー大佐を迎え、ブース記念病院102周年記念集会をおこないました。司令官は、33人の職員に永年勤続の感謝状を授与しました。最後に司令官は「目的をもつことの力」（フィリピ4・10～13）と題してメッセージし、山室機恵子がブース記念病院の前身である結核療養所を建てるために奔走したように、不可能だと思われることでも進めていくよう励ましました。（出席者48人）

京都小隊

9月30日(日)、小林勝利少佐夫妻を迎え、召天者合同記念聖別会を守りました。

浜松小隊

10月21日（日）、召天者墓前記念会を守り、先達の信仰を思う時をもちました。

横浜小隊

● 1999年の台湾大地震の時、日本からも救援チームが派遣され、活動しました。その後、その地域にはプーリー小隊が開設されました。

9月30日（日）、横浜小隊メンバーがプーリー小隊を訪問し、聖別会に出席しました。集会では、5人のジュニア・ソルジャーの入隊式、青少年部バンド、合唱があり、横浜小隊長徳永幸次郎少佐は、19年前の救援活動に参加したこと、その後にできた小隊が、たくさんの人で溢れていることに、神様の御業を見、感動している、と証ししました。最後に、プーリー小隊の呉君毅少佐よりメッセージが語られました。

午後は、歓迎昼食会。プーリー小隊の心のこもったおもてなしに感謝しました。（横浜小隊からの参加者6人）

● 10月21日(日)、女性部サンデーの聖別会の席上、軍国女性部書記補佐石川芳子少佐の司式で、瀬戸口洋子さん（写真中央）、浅野あゆみさん（写真左）の家庭団入団式がおこなわれました。

また、午後1時半より、「お酒の問題を一緒に考えてみませんか？」の講演会が開かれました。講師に救世軍自省館職員の高橋正隆さんを迎え、お酒の問題、アルコール依存症とは何か、また、お酒の問題をもつ人への具体的なアプローチについて学びました。案内のチラシを見て来られた方もあり、貴重な学びの時となりました。（参加者21人）

(7ページより)

ルのケロちゃん（ハンドパペット）と掛け合いをしながら聖書の話をしました。（大人20人、子ども33人）その後、明日葉と愛光園を訪問しました。

24日（水）、高齢者施設かるが会を訪問し、同会議室にて呉小隊の祈祷会をおこないました。（5人）

25日（木）、中国九州地区士官会を開催。書記長官は「知る能力」について話をしました。（10人）昼食会後は、呉保育所の見学と西日本豪雨災害支援報告会をおこない、呉小隊長吉田有中尉が「地域と共に」と題して支援報告をしました。（呉保育所職員3人も参加）

26日（金）岡山小隊、福山小隊の戦友を訪問。

27日（土）岡山小隊、福山小隊合同聖別会を指揮。（会衆21人）午後のサンビーム（子ども会）では、田辺真理子日曜学校教師がフィンガーペイントで秋の木を作成し、軍国女性部書記は紙芝居を使って聖書の話をしました。（7人、内子ども2人）

28日（日）広島小隊聖別会を指揮。（会衆18人）聖別会前には、野戦（5人）、祈祷会（12人）をおこない、午後は家庭団例会をおこないました。（大人15人、内子ども1人）（連隊報、上の写真は八幡小隊に集った人々）

神田小隊120周年記念集会

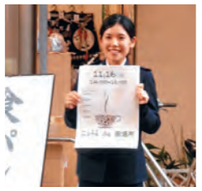
10月7日(日)、秋晴れに恵まれ、司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐を迎え、記念聖日を過ごしました。

聖別会はジャパン・スタッフ・バンドの賛美で開会。司令官より、18人の下士官の代表として、杉茂書記が永年勤続章を授与されました。続いて神田小隊戦友と有志からなる合唱「めぐみの高き嶺」が声高らかに賛美され、軍国女性部会長が勧話。西宮渡会計が信仰生活の祝福を真実に証ししました。司令官は「あなたの意志は」(フィリピ1・3～6)と題し「神の約束を信じ続けよう。リバイバルがまたここから起きようとしている」と語りました。司令官の招きに応(こた)え、立ち上がり、また恵の座で、熱心な祈りが献(ささ)げられました。(会衆91人)

様々な思い出を分かち合う昼食会(85人)の後、証言のパレード(50人)。神保町の街に賛美の音が響きました。

14時30分から記念講演会。同志社大学教授木原活信氏による講演には、他小隊や外部からも多くの参加者があり、神田・京橋・月島小隊有志の合唱「主よ知ってますね」の賛美や、ジャパン・スタッフ・バンドの演奏が会を華やかに盛り上げました。木原氏は、山室中将の人間味豊かな生き様と、信仰によっていかにその時代の弱さの中にある人人のために用いられたかを様々な記録から紹介し、現代人への問いを投げかけました。(参加者133人)

2018 士官学校キャンペーン



11月16日(金)～18日(日)「YOU(ユー)！～大切なあなたを捜しています～」のもと、天満小隊にておこなわれました。

1日目、午前に戸別訪問をしました。(349軒)「何があるん？」と快くチラシを受け取ってくれる人の多いことに候補生は驚いていました。

午後2時、カフェ・チャーチ「Café de(カフェデ) 居場所」を小隊の1階ロビーを開放しておこないました。樋口潔候補生がギターで賛美と案内をしながら通る方を招き入れると、席はすぐに埋まり、集った方々の中での会話も弾みました。友安渚候補生がリコーダーと歌で賛美し、救いの証言をしました。信仰に興味をもたれたご夫妻が候補生方としばらくお話をして帰られました。後半も弾き語りで賛美と案内をし、数名の入場者がありました。(参加者22人、内スタッフ8人、新来者12人)　夕方、チラシ配布での集会案内に出かけました。(460部)街中を祈りながら歩くことで祝福を届け、地域を知る恵みに与(あずか)りました。

2日目、午前に「ひとり野戦」をおこないました。天神橋筋商店街の3箇所に一人ずつ立ち、ギター、ホルン、リコーダーでそれぞれ賛美をし、ポスター、写真等を首

から提げたり、譜面台に御言葉(みことば)を貼ったりして、証言と聖書の話をし、約20分間、町行く人に神の愛を届けました。候補生は、「チャレンジでしたが、やってみたら楽しかった」との感想を語っていました。

午後はキッズタイム(子ども会)。ゲーム、歌、羊探し、とプログラムが進むにつれ子どもたちとの距離は縮まり、候補生3人による大型紙芝居「まいごの羊」が始まると子どもたちはじっと見入っていました。初めての親子が5組参加、最後にお菓子のつかみ取りをして終わりました。(参加者子ども10人、大人15人)

3日目、9時半から日曜学校。子どもたちは、司会の樋口光世候補生と体を使って賛美し、池田青少年部曹長と暗唱聖句を楽しんで覚え、ペープサートでルツとナオミのお話を聞きました。(子ども13人、大人14人)10時半から聖別会。樋口潔候補生は献身の証言をしました。士官学校長熊田光子少佐は、「羊飼いの喜び」(ルカ15章)と題して、御言葉を取り次ぎました。午後は広告野戦と西日本連隊音楽祭に参加。チラシを受け取った方が、音楽祭に来てくださり、士官学校一行は、候補生のインタビュー証言と合唱をしました。毎日、集会に新来者があったことを主に感謝しました。(士官学校報)

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

西日本連隊

●連隊音楽祭及び府民クリスマスプレ集会

2018年11月18日(日)、大阪セントラルホールでおこなわれました。大阪セントラルホール・バンド(ＯＣＢ)と天満小隊家庭団タンバリン隊による演奏、マーチ「クリスマス・ジョイ」によって華やかに開会。連隊女性部書記加藤直子大尉の司会によってプログラムが進められました。ＯＣＢによる演奏「モーニング・スター」、西成小隊による賛美「赤青黄の三色に」、加藤寧音兵士(高松小隊)による独唱「おどろくばかりの」に続いて、特別企画「青年メンバーによるブラスの独奏」がなされました。昨春、大阪での連合集会でニューヨーク・スタッフ・バンドと合同演奏をした青年たちが、その恵みの体験を土台にして、練習に取り組み続けた成果を発表しました。間島遥菜さん(天満小隊小隊候補生)、沖永遠さん(泉尾小隊ジュニア・ソルジャー)、立石新さん(神戸小隊青少年部ジュニア・ソルジャー)、石田征慈さん(泉尾小隊ジュニア・ソルジャー)、立石栄祈さん(神戸小隊ジュニア・ソルジャー)、間島正悟兵士(天満小隊)の独奏に対して、成長を喜ぶ温かい拍手が送られました。

伝道キャンペーンとして来阪中の士官学校による「賛美と証言」、ＯＣＢと関根信也楽隊員(天満小隊)によるコルネット独奏「飼い葉おけの中に」と続き、集会のまとめとして、西日本連隊長添田美和大尉が「恐れから賛美へ」(ルカ2・8～20)と題してメッセージをしました。神の御子(みこ)イエスの降誕に現された神の恵みを受け入れて、賛美と喜びと共にクリスマスを迎えようと勧めがありました。最後に、ＯＣＢの演奏「聖なるかな」で集会を閉じました。

士官学校がキャンペーンとして、近隣を戸別に訪ねて案内をしたことや集会前の野戦が祝福され、多くの会衆が与えられました。(会衆83人、内新来者12人、子ども1人)

●社会鍋＆クリスマスコンサート(大阪地区社会鍋デモンストレーション)

11月25日(日)午後2時30分より、天神橋筋商店街でおこないました。クリスマス・カロルやタンバリン操練を織り交ぜながら、道行く方々に社会鍋とクリスマスの案内をしたところ、早速社会鍋に献金が寄せられました。(参加者23人、内子ども1人)

同日、社会鍋デモンストレーションに先立って、天満小隊バンドと戦友有志で南森町駅前、天神橋筋商店街の数箇所にてクリスマス・カロルの演奏と案内をしました。天満小隊長加藤直子大尉が司会及び案内をし、大阪セントラルホール・バンドと天満小隊家庭団タンバリン隊による賛美に多くの方々が拍手と関心を寄せてくださいました。

写真上より、社会鍋＆クリスマスコンサート、大阪セントラルホール・バンド、ソロや独唱をした青年たち、天満小隊家庭団タンバリン隊、西成小隊の賛美、士官学校一行、社会鍋＆クリスマスコンサートの参加者

YP（青少年部）・ファミリーニュース

関東東北連隊
JAM（ジャム） CAMP

9月23日（日）、24日（月）、作原野外活動施設（栃木県佐野市）で、「神さまの息」（エゼキエル37・10）をテーマにおこないました。神様がわたしたちの命のみなもとであることを知り、様々な賛美の方法で神様の与えてくださったものに対する感謝を神様に献（ささ）げることを学びました。

開会集会では、連隊長補佐の張田望中将がテーマ聖句から「神さまの息」と題して、神の霊がわたしたちを生かし、神の霊がわたしたちに力を与えてくださる、と話しました。開会集会後はブラスバンド（写真1）、タンバリン（写真2）、バーベキュー準備（写真3）のグループに分かれて活動しました。その後は、みんなでバーベキューをしながら楽しい団欒（だんらん）の時をもちました。

1

2

２日目、柞山順子中尉（佐野小隊長）が朝の祈りを導き、１日目のグループに分かれて各々練習をしました。バーベキュー準備グループは、閉会集会会場用の飾りを作りました。

閉会集会では、ブラスバンドとタンバリンのグループがキャンプでの練習の成果として、賛美を献げました。最後に、連隊長吉田司少佐が創世記２章２節よりメッセージをしました。

参加者一人ひとりが神様を賛美する喜びを知りました。これからもそれぞれ神様と一緒に歩んでいけるよう祈り続けたいです。＊JAM（ジャム）とは、本格的な準備や、あらかじめ用意したアレンジを使うことなしに、ミュージシャンたちが集まって即興的に演奏することです。（連隊報）

3

災害対策室リポート

西日本豪雨被災地支援

■広島県呉市での災害被災地支援活動報告（続）

11月12日（月）、に「キリスト教会呉ボランティアセンター」（呉地区の教会が協力して組織）より、広島県呉市にある天応仮設住宅40戸に毛布80枚を提供しました。このための資金を救世軍が提供し、奉仕者として呉小隊長吉田有中尉と呉小隊付吉田輝美中尉も参加しました。

天応仮設住宅との繋（つな）がりは、重機を用いて土砂撤去させていただいたお宅の方が、後に仮設住宅における世話人（自治会長）となったことにより構築されたものです。

緊急支援が継続支援への信頼関係に繋がっていることを思います。

また11月28日（水）にも、「キリスト教会呉ボランティアセンター」として、天応仮設住宅にコタツセット（コタツ、敷布団、掛布団、コタツ用毛布）を32セット提供しました。吉田有中尉が参加しました。

海辺に建てられた仮設住宅は海風を直（じか）に受ける立地であり、寒さも厳しい環境です。暖かい毛布とコタツのセットは大変喜ばれました。

街頭給食ボランティア募集中

東京地区では、１月～３月まで週３回（月・水・金）街頭給食がおこなわれます。

ボランティアに参加してくださる方は、救世軍本営の社会福祉部までお問い合わせください。

八幡小隊

●10月28日（日）、聖別会の席上、小隊長樋口和光少佐の司式によって、森山修一曹長のお孫さん、湊二郎さんの感謝と祝福の式がおこなわれました。ご両親の森山智之さん、麻耶さん、長男の和春さんが一緒に高壇に上がり、小隊に神様の家族が加えられたことを会衆一同で喜びつつ、神様の祝福を祈りました。

天満小隊

●11月4日（日）、聖別会の席上、関根信也楽隊軍曹・結実小隊ユースセクレタリー夫妻の長男、虹太（こうた）さんの献児式（けんじしき）が連隊長添田美和大尉の司式でおこなわれました。虹太さんの祖父母、曾祖母も集い、喜びを共にしました。

大森小隊

●11月18日（日）、社会福祉サンデーの聖別会の席上、4人の子どもたち（7歳2人、5歳2人）と関係者を迎え、幼児祝福式をおこないました。子どもたちは聖別会の最後まで出席。司式した文書部長寺澤眞由子少佐の話をしっかり聞いていました。

また午後には、大森小隊で活動しているゴスペルクワイア「エターナルプレイズ」15周年記念コンサートがおこなわれました。ゲストに江東小隊を会場に活動している「グレイトジョイゴスペルクワイアー」を迎え、会館いっぱいに賛美の声が満ちる祝福の時でした。

日曜学校教師奨励サンデー
2月10日（日）

こども用歌集 完成！

2019年1月1日、『救世軍こども歌集　こどものうたぼん』が発売されました。

A5版104曲
定価1,000円（税別）

日本の救世軍では、1964年に『こどもぐんか』を発行し、その後1969年に曲を増やした改訂版が発行され、用いられてきました。（現在絶版）

この度（たび）、約10年の準備期間を経（へ）て、ついに完成しました！

少しでもたくさんの人に使っていただくために、様々な工夫をしています。基本的に３段楽譜で上段はメロディー譜、下２段は伴奏譜になっています。伴奏譜がなかった曲にも伴奏譜を付けました。曲によっては子どもが歌いやすい音程に変更したり、初心者でも弾きやすいように伴奏を変更しましたが、救世軍の楽譜のハーモニーとの違和感が少なくなるように配慮しました。歌詞の訳を見直した曲もあります。ギターコードや注釈をつけ、救世軍内の作者による新しい曲も多数入っています。カバーイラストは、一昨年アメリカ南部軍国からインターンで来日したサラ・アンソニーさんの作品です。この他、本当に多くの方々のご協力によって完成しました。

また、この歌集は、かつて日本の青少年のために奉仕された、ドロシー・フィリップ大佐の「日本の青少年のために」との遺贈による支援によって発行されています。ぜひ、お手元に置いて賛美に用いてください。

主の僕（しもべ）らよ、こぞって主をたたえよ。
夜ごと、主の家にとどまる人々よ
聖所に向かって手を上げ、主をたたえよ。
天地を造られた主が
シオンからあなたを祝福してくださるように。
（詩編134編）

（青少年部報）

名古屋小隊

11月11日（日）、司令官ケネス・メイナー大佐夫妻によるキャンペーンの聖別会で、2人のジュニア・ソルジャーが誕生しました。手縄小春さんと奥山麻夜さんです。（写真↑小隊長斎藤丈夫大尉と。↓会衆全員で）

呉小隊
黒阪 璋書記　天に召さる

黒阪璋書記は、2018年6月15日、入院先の病院より天に召されました。98歳でした。

1919（大正8）年6月19日生まれ。1926（昭和1）年より、救世軍大連小隊の日曜学校生徒でしたが、1932（昭和7）年、母の属する大連聖教会に通い始め、1938（昭和13）年に受洗。また、同年大連商業学校を卒業。1943（昭和18）年上智大学文学部英文学科卒業。1947（昭和22）年、酒井しのぶと結婚。同12月、救世軍呉婦人寮指導員となり、翌年グレー少佐（オーストラリア出身）司式により呉小隊にて兵士入隊。1954（昭和29）年、北海道の北星学園女子中学高等学校英語教諭となり、札幌小隊に転籍。1974（昭和49）年、同校長に就任。1985（昭和60）年同校定年退職。神田小隊に転籍し、1988（昭和63）年、ブース記念病院チャプレン補佐、1993年、東京連隊特務曹長となり、1999年呉小隊に転籍。2001年呉小隊書記の任命を受け、召天直前まで小隊の中核として奉仕しました。

6月16日前夜式、6月17日告別式が、呉小隊にて小隊長吉田有中尉の司式でおこなわれました。

ご遺族関係者の上に神様の御慰めをお祈り申し上げます。

（写真は在りし日の璋さんと夫人のしのぶさん）

召天者合同記念会

2018年10月13日（土）、多磨霊園救世軍士官墓所前でおこなわれました。（参列者292人）

遺族を代表して挨拶する高橋和子様

救世軍公報

任命

任軍国特務曹長
ジョナス・ランドバーグ兵士
（スウェーデン及びラトビア軍国）
補財務管理部長補佐
ジョナス・ランドバーグ
軍国特務曹長

二〇一八年十二月三日付
司令官　ケネス・メイナー

◆お詫びと訂正◆

二〇一八年9月15日発行
第二七七二号8ページ
○熊谷小隊久富俊子家庭団書記の勤続年数は65年でした。
お詫びして訂正いたします。
二〇一八年11月15日発行
第二七七五号9ページ
○黒阪兵士のお名前は、璋でした。
お詫びして訂正いたします。
『ときのこえ』編集人　寺澤　眞由子

救世軍歌集
作者物語
連載229

391　雪ふるまえに（ヘンリー・アルフォード　Henry Alford）

（承前）彼がつくった賛美歌と翻訳した詩は『Psalms and Hymns』（1844）と第4版の『The Poetical Works of Henry Alford』（1845）、『The Year of Praise』（1867）に掲載されている。彼は同時代の様々な分野において優れた人々を友人にもち、また、その優しい人柄で多くの人に愛された。

この歌は、最初、「感謝祭の後で」というタイトルで、前述の『Psalms and Hymns』に載（の）せられた後、彼自身によって少し手直しが加えられて第4版の『The Poetical Works of Henry Alford』に、その後、さらに大きな改訂をしたものが彼自身の編纂（へんさん）の『The Year of Praise』（1867）に掲載された。そして最終的なものは第5版の『The Poetical Works of Henry Alford』（1868）に掲載され、時代が下って『Harvest Festival Songs』（1891）にも掲載された。『救世軍歌集』には1930年に収録された。日本の旧『救世軍歌集』には、「ゆきしもしげき冬にさきだち」という歌詞で載せられている。

392　あいの御神よ（ジョン・サムエル・ビューリー・モンセル　John Samuel Bewley Monsell）（1811－1875）

ジョン・サムエル・ビューリー・モンセルは、牧師の息子としてロンドンデリーの牧師館に生まれた。ダブリンにあるトリニティ・カレッジで教育を受け、1834年に聖職者としての叙階を受けた。その後、数多い著作で知られるアイルランドの司祭リチャード・マントの下で牧師となり、続いてレイモーンの教区牧師、そして1853年、サリーのイーガムの牧師となった。更に、1870年には、ギルフォードの聖ニコラス教会の牧師に任命された。しかしその5年後、教会の改築作業中の事故によって命を失った。

彼は300に上る賛美歌と詩をつくったが、それらは、『Hymns of Love and Praise』（1863，1866）、『The Parish Hymnal』（1873）を含む彼の様々な著作物に載せられている。

393　妹背をちぎる　（『新撰讃美歌』より）

作者についての情報はない。ただ、この歌は明治21（1888）年に発行された『新撰讃美歌』に掲載されていることから、その編纂に携わった植村正久牧師か、その時代の人の作であると思われる。曲はJ・M・マクノートン作で、明治初年に来日した宣教師によってもたらされた。この歌は各教派の賛美歌集に収録され、日本において結婚式でよく用いられる歌として現在に至っている。

394　かみともにいまして　（ジェレマイア・イームズ・ランキン　Jeremiah Eames Rankin）（1828－1904）

ジェレマイア・イームズ・ランキンは、ニューハンプシャー州ソーントンで生まれた。そして、ヴァーモント州ミドルバリー・カレッジとアンドーヴァー神学校で教育を受けた。1855年に聖職者として叙階を受け、ニューヨークの組合教会の牧師として、ヴァーモント州のセント・アルバンズ、マサチューセッツ州チャールスタウンで奉仕した。その後、1869年にワシントンDCの第一組合教会、1884年にはニュージャージー州オレンジのヴァレー組合教会でそれぞれ奉仕。1889年にワシントンDCに戻り、ハワード大学の学長となった。彼はその生涯中、数冊の説教集その他を著（あらわ）したが、その中に『Gospel Temperance Hymnal』（1878）、『Gospel Bells』（1883）、『German English Lyric, Sacred and Secular』（1897）が含まれている。

この歌は、「a Christian goodbye」とのタイトルで、作者がワシントンの第一組合教会の牧師だった時につくられた。彼はこの詩の1節を書き上げると、それを2人の人物に送り、曲をつけてくれるよう頼んだ。一人は、学校教師で財務係をしていた無名のウィリアム・ゲールド・トマー、もう一人は「いつくしみ深き」の作曲者として知られるチャールス・コンヴァースである。

そして、ランキンはトマーのほうを採用し、2節以降の歌詞を曲に合わせてつくった。この歌は、前述の『Gospel Bells』（J・W・ビショフ、オーティス・F・プレルブレーと作者の協同編纂）に掲載された。この歌は、最初に組合教会の中で歌われ、その後、音楽伝道者アイラ・D・サンキー編纂『Sacred Songs and Solos』、『The Officer』（1895）6月号、『音楽救世軍人』（1894－1895）付録に掲載され、『救世軍歌集』には1899年に収録された。

克己週間出発集会
2月8日（金）19時
会場：山室軍平記念ホール

コラム

日進月歩
先客万来

『憐れみを伝える者』の学年候補生　樋口　光世

『神の国を伝える者』の学年候補生　友安　渚

日進月歩

士官学校入校時に私たちと子どもたちの上履きを購入しました。

今秋、子どもの上履きを購入するのが、これでなんと5足目（笑）。0.5cmずつなので、分かりにくいですが、確実に成長しているんだなぁ～と大きくなっていっている上履きを見ながら、子どもの成長を感じたひとときでした。それと同時に、私たちも入校してから、成長しているかな？　とふと考えさせられました。

士官学校では、様々な教科の授業と共に、ブリゲード（小隊での実習訓練）やキャンペーンなど実際的な訓練があります。こんな言い方は適当でないかもしれませんが、ボーッと過ぎれば、何事もなく終わってしまう、あっという間の2年間かもしれません。しかしそうはさせてくれないのが神様。濃厚な時を過ごさせてもらっています。それは、神様が候補生一人ひとりをいろいろなことを通して、違ったかたちで、それぞれのタイミングで、霊的に取り扱ってくださる2年間なのだと日々感じています。

私自身、霊的に渇きを感じる時に、心霊デーという取り分けられた時間が備えられていたり、悩んでいる時に、授業の中でその答えが与えられたり、ということをたくさん経験させてもらっています。

この士官学校でしか受けられない恵み、学びをあますところなく受けていき、振り返った時に少しずつでも成長を実感したいものです。

千客万来

秋の士官学校キャンペーンは、「ＹＯＵ！～大切なあなたを捜しています～」（ルカ15章）のテーマの下、天満小隊でおこなわれました。

一番のお恵みは、外に出掛けて行き、多くの方に声を掛け、チラシを手渡し、実際に多くの新来者が与えられたことです。大阪の方々の反応の良さに、大変驚き、感動すら覚えました。

制服を着てポスターを持って商店街を歩くだけで「何かあるの？」「チラシちょうだい！」と、面白いくらいに声を掛けてくださるのです。それに応（こた）えない手はない、と集会の案内にも力が入ります。集会に来られた方々の状況は様々。「お友達と買い物中に」「これから別の教会に行くまでに時間があるから」「帰宅途中」「近くの花屋さん」「県外から買物に来ていて」等々。「買い物して時間があったら」と言って、後から本当に来てくださった方も！　皆さん、声を掛けなければ、チラシを見なければ、出会うことがなかった方々です。

外に出て行き、たくさんの種蒔きがなされました。多くの方が集会に出席されました。集会に参加しなかったけれど、チラシや『ときのこえ』を受け取ってくださった方もたくさんおられます。そのお一人おひとりが、再び天満小隊に集い、小隊が「千客万来」の賑（にぎ）わいとなりますよう、お祈りいたします！

士官学校新校舎起工式

2018年10月20日（土）、司令官ケネス・メイナー大佐の司式でおこなわれました。施工業者となる田島建設は、この日のために、赤・青・黄の床マットを準備してくださいました。

起工式では、設計士、施工責任者、司令官によって、聖書が埋められました。

いよいよ新しい士官学校が建てられます。お祈りください。なお、献堂までは旧校舎で引き続き授業がおこなわれます。

創立者　ウイリアム・ブース　大将　ブライアン・ペドル（万国本営　英国ロンドン）　日本司令官　ケネス・メイナー（救世軍本営　東京都千代田区）　http://www.salvationarmy.or.jp

社会鍋へのご協力ありがとうございました！

●全国各地で、社会鍋による支援活動を開始しています。

●第3回救世軍社会鍋俳句コンテスト作品募集中！
- ◆募集内容：社会鍋を題材にした未発表作品、一人2句まで
- ◆応募方法：郵送（ハガキ不可）、ファックスでの送付、救世軍ホームページ応募フォームから
- ◆締め切り：3月31日（消印有効）
- ◆賞　　：優秀賞1句、特別賞2句、ほのぼの賞3句
- ◆結果発表：『ときのこえ』2019年6月1日号紙上、公式ホームページ
- ◆選　　者：三浦喜代子氏〔日本クリスチャンペンクラブ代表〕他
- ◆送り先、問い合わせ先：

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-17
救世軍本営
「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係
Tel 03-3237-0881
Fax 03-3237-3588

受賞式は、6月におこなわれる創立記念コンサート席上を予定しています ふるってご応募ください

←2018年9月30日、北海道在住のほのぼの賞受賞者熊谷明也さんに、表彰状を手渡す書記長官藤井健次大佐補
↓2018年12月6日、学年全員で応募してくださった川越市立福原中学校に、社会福祉部長西村保少佐が救世軍を代表して表彰状と『第二回救世軍社会鍋俳句コンテスト句集』を届けた。左より、国語科担当の山本純人先生と救世軍の俳句コンテスト担当者等

兵士献身サンデー　2月3日（日）
◆2月は、スチュワードシップ月間です

ご案内　ぜひご参加ください！
3月22日（金）～3月24日（日）ユースセミナー ※申込制
3月24日（日）士官候補生サンデー
午後3時　士官任官式（山室軍平記念ホール）
午後6時30分　新任士官任命式（山室軍平記念ホール）

社会鍋イベントアルバム

写真上より、
- 「救世軍クリスマス社会鍋コンサート」（2018年11月18日 東京）
- 11月30日社会鍋の日、東京東海道連隊の青年主催でおこなわれた、RED KETTLE（社会鍋）カフェ（会場：渋谷小隊）
- 同会場内の様子
- 「あべちか 社会鍋とクリスマス・コンサート」（2018年12月9日 大阪）

発行日及び定価
▼発行日
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行（除く七月）
▼定価
福音版・一部　四〇円
広報版・一部　一〇〇円
クリスマス特集号（十二月一日号）・一部　一〇〇円
振替・〇〇一八〇―五―四四〇〇

発行兼印刷人　救世軍
代表者　ケネス・メイナー
編集人　寺澤　眞由子
〒101―0051　東京都千代田区神田神保町二ノ十七
電話　東京(03)三三三七―〇八八一
発行所　救世軍本営
印刷所　株式会社ピーアンドエス

（取扱支部）

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会